

# 日本のこども園にアトリエと アトリエリスタが在ることの意義

副園長 中村 知嗣

## 愛泉こども園について

### 定員

0歳児:9名 1クラス

1歳児:18名 1クラス

2歳児:48名 3クラス

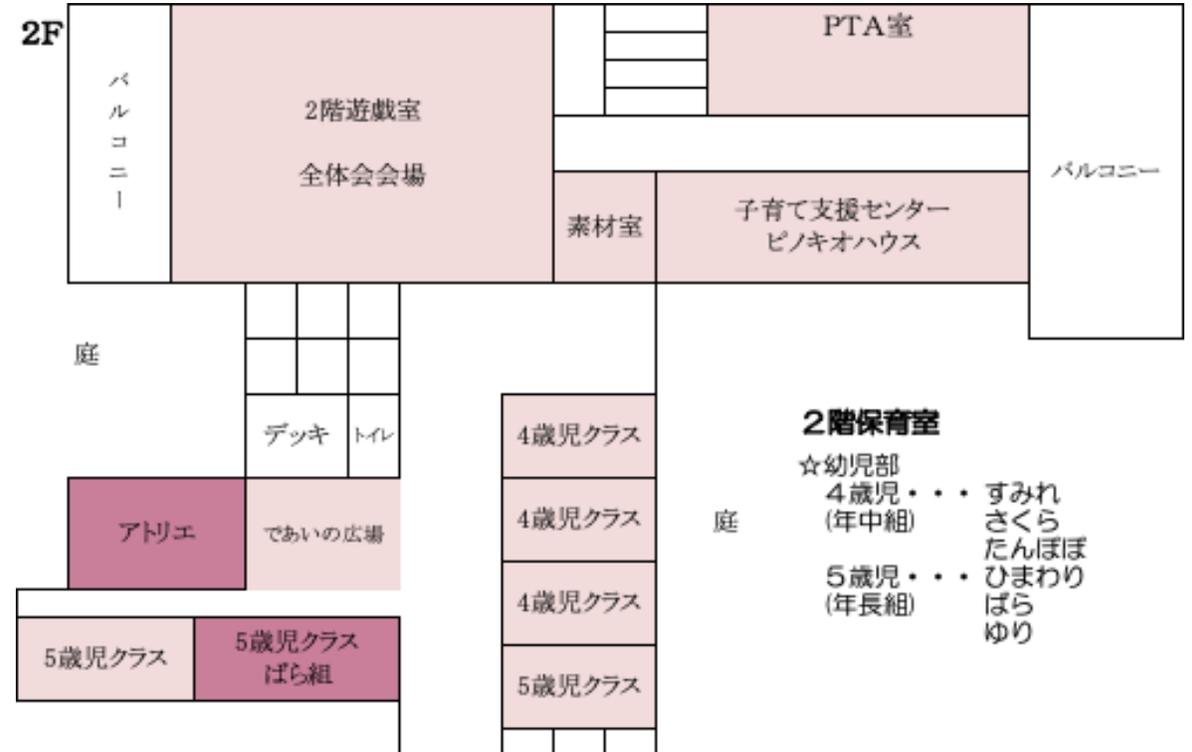
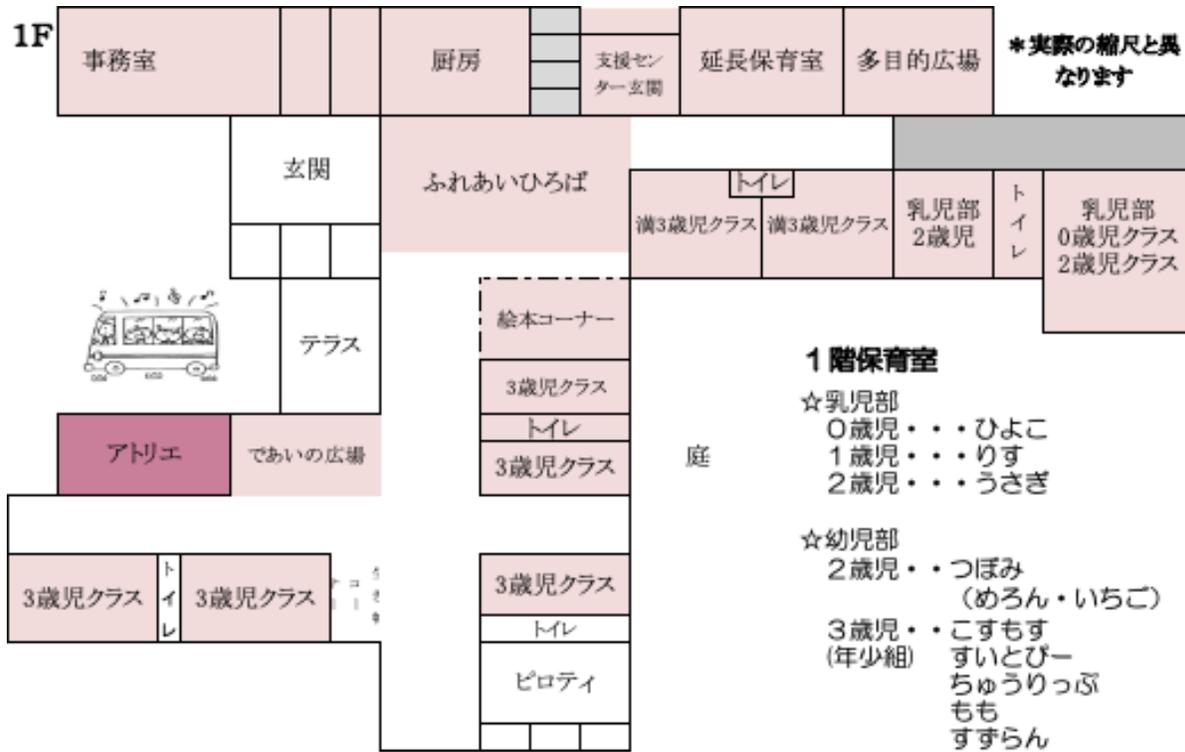
3歳児:80名 5クラス

4歳児:80名 3クラス

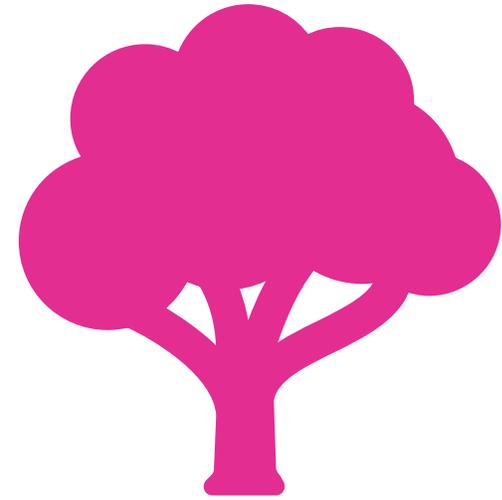
5歳児:80名 3クラス

合計 315名

# 愛泉こども園 見取り図



愛泉こども園の  
空間的環境



## 愛泉こども園で大切にしていること

- 多様な素材と出会い、つくること
- どこでも誰とでも遊べる
- 自分を表現する楽しさを知る
- 自然と関わる
- 対話を通して関わる力を育てる

# 総合的に人・モノ・コトを通じた関わりができる場としてのアトリエ

多様な素材と出会い、つくること  
どこでも誰とでも遊べる  
自分を表現する楽しさを知る  
自然と関わる  
対話を通して関わる力を育てる



## アトリエとアトリエリスタについて

### アトリエ

子どもたちの遊び場の一つ

時間の制約がなく自由度の高い表現行為ができる場所

静かで落ち着いた環境（パーソナルスペースを作りやすい）

### アトリエリスタ

表現を主体とした行為に焦点を当てて子どもと大人を支えている存在

# 1.目的

---

アトリエは自由遊びの時間に子ども達が自由に往き来できる場である。子ども達はアトリエにある道具や素材を使って時には自由に伸び伸びと表現し、時にはじっくりと集中してもの作りを行っている。

---

アトリエリスタはつくる行為を通して、子どもの思考を促し、創作意欲を刺激している。アトリエでの相互行為は子ども達の育ちにも、保育者の保育観にも影響を与えていると感じる一方で、日本のこども園においてアトリエとアトリエリスタがいることの意義についてはまだ報告が少ない。

---

本研究ではアトリエでの実践と保育室での実践における子どもの表現と育ちを考察しながらアトリエの意義について明らかにしていきたい。

## 2.方法

---

アトリエでの実践記録、保育室での実践記録から実践を振り返り考察する。

---

アトリエが子ども達、保育者達にとってどのような意味があるか実践を通して保育者でカンファレンスを行いまとめる。

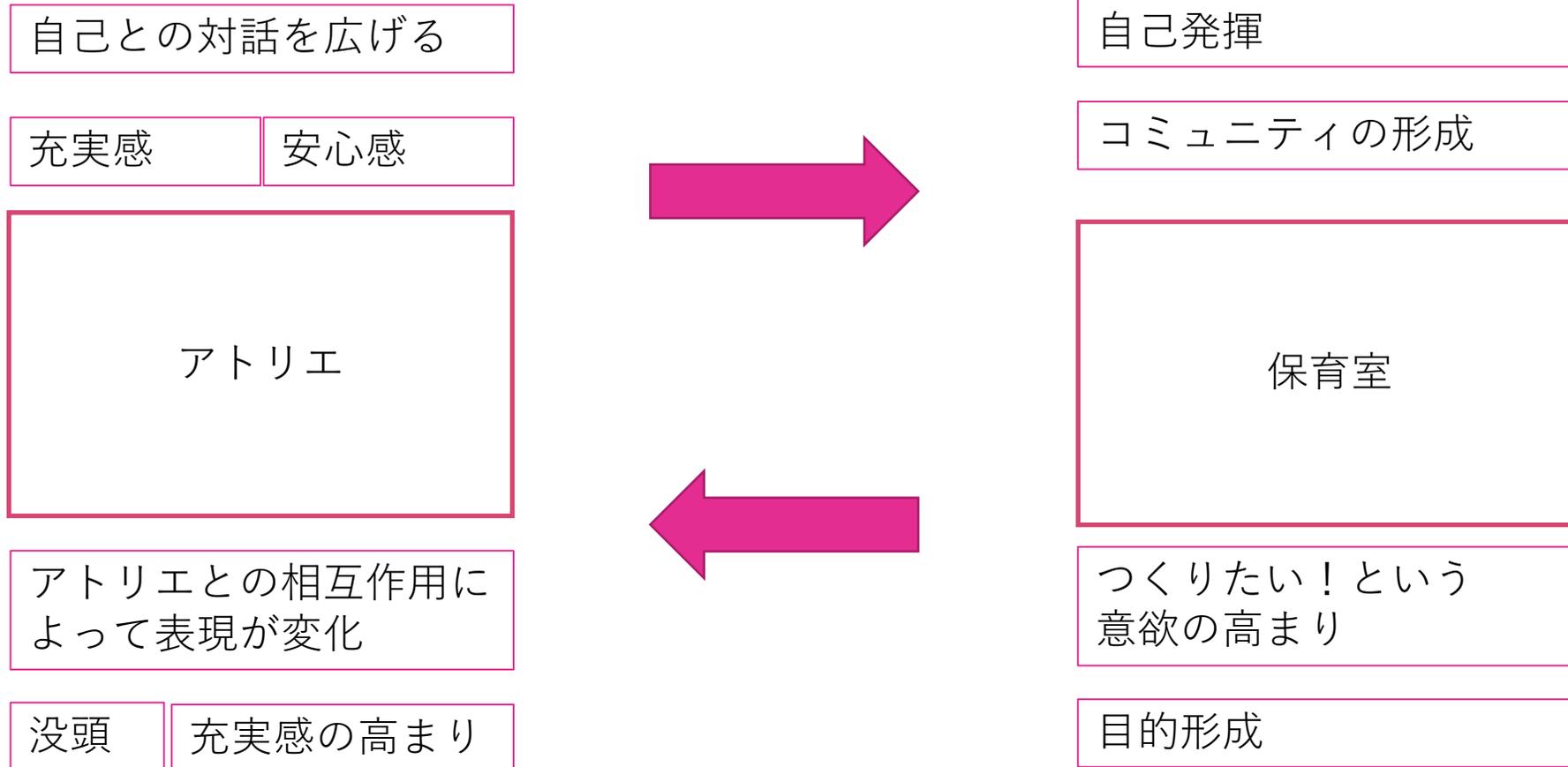
---

保育者に記述式のアンケートをとりアトリエとの相互行為を通してどのように保育者の意識が変化したかを考察する。

---

上記3点の考察をまとめてアトリエの意義について明らかにしていく。

### 3.結果・考察 アトリエと保育室の往き来から生じる変化



## アトリエとアトリエリスタがあることの意義 —子どもの変化—

1. 静かな空間で表現活動ができる為、自分の世界に入りじっくりと取り組める  
→自己との対話が広がり、社会へと繋がっていく可能性となる
2. 色々な個性や特性のある子どもたちにとって、保育室以外に過ごせる居場所の選択肢が増え、それを選べる環境にあることでありのままの自分で過ごせる。
3. 自分の思いをありのままに表現できる場、大勢の前で話すのが得意でない子、消極的な子もアトリエという場では何らかの形で自分なりの表現方法で発信できる
4. 自由度の高い空間の中、アトリエリスタが関わることで表現したい気持ちや行為を引き出すことができる。

## アトリエとアトリエリスタがあることの意義 —保育者の意識の変化—

- 1.絵を描いている時の子ども達の姿や表情、言葉により注目できるようになり、子ども達の行為やその時の気持ちを一緒に喜んだり面白がったり、感じ取れるようになった。
- 2.以前は描かせなければと思っていたが、今はその絵を描いている時の子ども達の姿や感情も含めて、成長を見取るようになった。（etc描画に対して肯定的な捉え方ができるようになった。）
- 3.美術・制作の専門性を持ったアトリエリスタに相談したりアドバイスを受ける機会が持てることで造形に関する知識や方法をはじめ習得する事が沢山あった。
- 4.保育や遊びの限界をあまり気にしなくなった。アトリエとアトリエリスタがある事で何でも出来る気がする！と教師自身前向きに子どもを支えられる。

## 4.課題

アトリエで遊んでいる子どもたちの様子や保育室で遊んでいる子どもたちの様子についてアトリエリスター保育者間で語り合う時間の確保